

<報道関係各位>

2013年5月17日

一般社団法人 日本化学工業協会

化学企業の個人・グループによる環境・安全活動を表彰 第7回『レスポンスブル・ケア賞』を発表

一般社団法人 日本化学工業協会(会長:高橋恭平 昭和電工株式会社会長 以下、日化協)は、本日、化学業界が自主的に進めるレスポンスブル・ケア活動(以下、RC活動)の普及や充実に貢献した個人、またはグループを表彰する『レスポンスブル・ケア賞(RC賞)』の受賞者を選定いたしました。

日化協は、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表するとともに社会との対話・コミュニケーションを行う活動(RC活動)を推進するため、日化協レスポンスブル・ケア委員会(以下、RC委員会)を設置し、これまでさまざまな形で活動を広めてまいりました。

その一環であるRC賞は、RC活動のさらなる活性化を図るため、化学産業に携わる会員企業の従業員一人ひとりの「環境・安全・健康」意識の向上を目的としており、毎年RC委員会会員企業の中からRC活動の実施・推進にあたり顕著な貢献をした個人またはグループを表彰するもので、本年度で7回目となります。

本年も、RC委員会内の選考委員会での一次選考、RC委員会幹事会での二次選考を経た後、最終的に日化協理事会の承認を得て決定いたしました。受賞した4事業所のグループは以下の通りです。

◆ JSR 株式会社 千葉工場

テーマ: 「JSR株式会社千葉工場のCO₂排出量低減活動」

受賞者: 森田弘一、五十嵐義雄、加藤昌彦、山口智大

選定理由: 2011年度の製造量は1990年度比で25%増加している一方で、省エネルギー活動を続けたことによりCO₂排出量を16.6%削減。原単位換算では33%の削減を達成した。

◆ 三井化学株式会社

テーマ: 「三井化学におけるメンタルヘルスの継続的改善活動」

受賞者: 土肥誠太郎、井手宏、村田陽稔、岡崎浩子、赤築綾子、伊東大輔、横田直行

選定理由: 全社メンタルヘルス増進計画を策定。メンタルヘルス不調者への対応・再発予防という個人別の対応のみならず、新入社員向けのメンタルヘルス対策や「職場ストレス度調査」を活用した職場コミュニケーションの向上及び風土改善活動を全社的に且つ継続的に実施している。

◆ 三菱化学株式会社 四日市事業所

テーマ: 「廃棄物ゼロエミッション」

受賞者: 市川稔倫、徳永英司、水谷功司、堀香奈子

選定理由: 全社方針として「2010年度までに埋立て廃棄物量を発生量の1%以下を達成する」という廃棄物ゼロエミッション目標を掲げた。四日市事業所では埋立て廃棄物の再資源化に積極的に取り組み、2011年度廃棄物ゼロエミッションを達成した。

◆ 三洋化成工業株式会社

テーマ: 「廃棄物削減チャレンジ」

受賞者: 坪内隆、村崎直樹、藤田良一

選定理由: 廃棄物を①減容化、②原燃料に有効利用、③有価物として売却、④排水として処理、プロセス改善により⑤排出量削減、⑥製品収率向上することで、廃棄物排出量を2008年度比で30%削減し、その状態を2011年度まで維持している。

なお、5月29日(水)にパレスホテル東京(東京都千代田区)にて表彰式を執り行うほか、翌5月30日(木)開催の『日化協シンポジウム2013』(於:経団連会館/東京都千代田区)にて受賞者による受賞講演を行う予定です。

《本件に関するお問い合わせ先》

一般社団法人 日本化学工業協会 広報部 高橋・高水 TEL:03-3297-2555

【RC賞選考基準】

- ・ 企業内のRC活動の推進にあたり、率先して実施し、顕著な貢献をした者
- ・ RC委員会の活動(PRTR、産業廃棄物処理、地球温暖化防止、労働安全、保安防災など)の実施に顕著な貢献をした者
- ・ 対話集会、報告書公聴会、実験教育などを通し、地域社会やその他ステークホルダーとのRCコミュニケーション活動の実施に顕著な貢献をした者
- ・ RCの海外活動に貢献した者

【レスポンシブル・ケア活動とは】

地球環境問題や工業化地域の拡大などによる「環境・安全・健康」に関する問題の広がり、また、技術の進歩により発生する新たな問題等に対して、化学物質に関する環境・安全・健康を規制だけで確保していくことは難しくなっています。化学製品を扱う事業者が、環境・安全・健康を確保していくために責任ある自主的な行動をとることが今まで以上に求められる時代となっています。

こうした背景を踏まえて、世界の化学工業界は、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動をしています。この活動を“レスポンシブル・ケア”とよんでいます。

【日化協レスポンシブル・ケア委員会とは】

レスポンシブル・ケアは1985年にカナダで誕生しました。1989年に国際化学工業協会協議会 (ICCA) が設立され、今やレスポンシブル・ケア活動は、世界57の国と地域(2013年3月)で展開されています。日本では1995年、化学物質を製造または取り扱う企業74社が中心となり、日化協内に日本レスポンシブル・ケア協議会 (JRCC) を設立し、それまで各企業が独自に行っていた環境・安全配慮の活動を統一・活発化し、社会の理解を深めていくこととしました。そして、2010年5月にJRCCは日化協レスポンシブル・ケア委員会 (RC委員会) となり、2013年3月現在の会員は104社となっています。